

“CAREN: アジア人材育成のための 領域横断国際研究教育拠点形成事業” のご紹介



海外交流

田中 敏 宏*

Introduction of Center of Asia Research and Education Network

Key Words : global campus, double-degree program, credit-exchange program

はじめに

文部科学省の平成26年度特別経費（国際的に卓越した教育研究拠点機能の充実）として「アジア人材育成のための領域横断国際研究教育拠点形成事業」が採択されました（平成30年までの5年間の予定）。本プロジェクトでは、“アジア人材育成のための領域横断国際研究教育拠点”を略して「アジア人材育成研究教育拠点（Center of Asia Research and Education Network）CAREN」（図1）と呼んでおり、新たな国際化教育拠点機能の充実を目指した活動を計画しています。本稿では、その活動の概略をご紹介します。

1. 本プロジェクトの背景

我が国の大学における教育の国際化は喫緊の課題であり、昨今の国際社会において競争力のある教育制度の充実、優秀な留学生確保への早急な対応が強く求められています。現在、大阪大学の理工系大学院では、8つの英語コースが設置されており、分野によっては40年の歴史を有する国際化教育のための英語コースの教育が行われています。その結果、現在では多数の修了生がアジア各国の大学の主要な地位で活躍されています。しかしながら、これらの英語コースは学問領域がそれぞれ独立しているため、単位互換制度やダブルディグリー制度へと展開させ



図1 CAREN プロジェクトのロゴマーク

るには、共通のルール作りなど、大学全体としての基盤整備を進める必要があり、専門分野の研究活動に従事している専任の教員のみの対応だけでは負荷が大きく、充実した制度設計とその恒久的制度への定着化には、多々困難が予想されます。そこで、大阪大学において実績のある種々の領域に対する既存の英語コースの運用を統合する運営体制を構築し、海外大学との単位互換制度やダブルディグリー制度の整備・推進、各種国際化教育プログラムの企画・設計・開発、及び新たな英語コース等の設置やそのためのコンテンツ作成を目的とした国際研究教育拠点を5年間で整備することをこのプロジェクトの目標としています。

上述のように、我が国の大学における教育の国際



* Toshihiro TANAKA

1957年4月生

大阪大学大学院工学研究科冶金工学専攻
博士後期課程修了（1985年）現在、大阪大学大学院工学研究科マテリアル生産科学専攻 教授 工学博士
界面制御工学・材料物理化学

TEL : 06-6879-7504

FAX : 06-6879-7504

E-mail : tanaka@mat.eng.osaka-u.ac.jp

化は、グローバル社会に対応できる人材の育成に対し重要かつ深刻な課題です。一方、アジアにおいては、自国の産業発展に寄与すべき人材育成に対する要望が極めて高い状況にあります。そこで、国を超えた統合型グローバルキャンパスを構築し、自国の産業育成に貢献できる留学生を大阪大学において育てるとともに、それらの修了生が自国に戻って、大阪大学の教育を出身校などの大学で広めて定着させ、そこから自国の産業をけん引する人材を輩出するとともに、日本との懸け橋となってさらなるグローバル化を加速する人材となることを期待しています。また、同じキャンパス内で教育を受けた日本人学生の国際教育にも活用できる教育拠点を形成することも計画しており、次世代に向けた国際化教育環境整備を先導する新たな試みであると考えています。

また、本プロジェクトの試みは、大阪大学の中期目標である「国際性を涵養するための教育の実践」(異なる文化を理解するための実践的な国際教育を実施する。), 「国際交流の促進と支援体制の充実」(大学の国際化を推進するため、学生・教職員等の双方向の交流を活性化させるとともに、支援体制を充実させる。), 「国際ネットワークの促進」(学生・教職員等の国際化を深めるため、海外の大学・研究機関との連携・交流ネットワークを充実させる。)の一環としても位置付けられています。さらに、中期計画の「教養・デザイン力・国際性を身に付けた学生の育成」(大阪大学独自の個性あふれる教育を展開し、学部から大学院を通じて、3つの教育目標である教養・デザイン力・国際性を身に付けた学生を育てる。), 「海外との交流による国際化」(諸外国の大学、研究機関等との研究・教育上の交流促進を通じて学生・教職員等の国際化を深める。)にも関係しています。

2. 事業の取組内容

大阪大学における複数の研究科で行われている既存の英語コースの修了者は短期コースを含めると数百名を超え、すでにアジア各国の大学において多くの修了者が主要な地位に就き研究教育業務に携わっています。このような国際化教育の実績を活用し、これまで単独で行われてきた各部局の英語コースの運営を統合し、単位互換制度やダブルディグリー制度の構築などを推進するための「領域横断国際研究教育拠点形成」を計画しています。将来は、本プロ

グラムで準備を進める単位互換制度やダブルディグリー制度を活用することにより、関連する相互の大学において教員が教育研究に携わり、学生も両方のキャンパスにおいて必要な授業の単位を取得する体制を実現できれば、相互に相手の大学をも巻き込んだ“統合型グローバルキャンパス”という就学環境を実現できます。本プロジェクトでは、そのために下記の4つの担当部門を設け、国際化研究教育拠点を形成するために、階層的かつ4つの部門が互いに連携を強めた有機的な活動を計画しています。

- ① 海外の大学へ拡充した“統合型グローバルキャンパス”の基盤構築
 - (1) 横断型組織内の支援体制とカリキュラム・広報活動の整備支援
 - (2) 入試体制の整備
 - (3) 留学生の就学環境ならびに修了生との連携体制の整備
- ② 海外大学との単位互換制度やダブルディグリー制度の設計・整備・運用体制の確立
 - (1) 海外大学のカリキュラム調査・評価
 - (2) 単位互換制度の企画・立案・実施
 - (3) ダブルディグリー等協定の締結のための体制づくりとその実施
- ③ 各種新規国際化教育プログラムの設計・開発
 - (1) 新規海外交流派遣プログラムの企画・運営体制整備
 - (2) 日本人教員・学生の派遣プログラムを含む新規海外交流活動の企画・実施
 - (3) 各種ワークショップなどの企画・運営
- ④ 新たな英語コースの構築や英語授業等のコンテンツ作成
 - (1) 新規英語授業の立ち上げ支援体制整備(コンテンツの作成等含)
 - (2) 新規英語コースの立ち上げ支援
 - (3) e-learning・遠隔授業などの教育用情報機器の支援

これらの活動を通じて、アジア各国からの留学生が本学日本人学生と共に英語等の言語で様々な分野の教育・研究活動を行うことができる研究教育拠点の整備を行う計画です。これらの①～④の整備のために、それぞれの担当部門に対して特任教授、特

任准教授、特任助教からなる担当チームを形成し、上記の研究教育組織の立ち上げと運用にあたることを計画しています。これらの特任教員は現時点では、工学研究科・国際交流推進センター（図2、3）を拠点として、各部局の国際交流部門を通して、領域横断国際研究教育拠点の形成にあたります。事業終了後は、恒久的な国際教育ができる専任教員による実施体制構築に至ることを計画しています。さらに留学生は本学での学位取得後、自国にて産業発展に



図2 CAREN プロジェクトの事務局がある工学研究科・国際交流推進センターが入居する建物。吹田キャンパス千里門のすぐ近くにある建物の1階です。

貢献するとともに、日本人学生も留学生とともに世界と日本の現状を実体験を通して理解し、グローバル化の必要性を認識することにより、国際人としての教養を身につけ、国際社会に寄与することを期待しています。

4. 事業達成による波及効果

大阪大学の実績ある英語コースを基盤にした領域横断国際研究教育拠点で教育を受けたアジア留学生が自国での産業発展をけん引し、同時に我が国において教育を受けた日本人学生とともに将来の国際化を進める核となることを考えています。また本事業を通じて、これまで連携のなかった専門領域間においても新たな学問分野の創成とそれに対する国際化教育プログラムの構築も期待しています。さらに本事業を通じて、日本人学生に対しても次のような波及効果があると考えています。

- ・世界と日本の現状を実体験を通して理解し、グローバル化の必要性を認識することにより、国際人としての自発的な学習意欲を高める。
- ・“統合化グローバルキャンパス”という“国内ならびに国外留学”環境において、アジア学生との様々な国際交流活動を通じて国際化社会に対する理解を深める。また、本プログラムによって開講数を増加させた英語による授業を活用し、コミュニケーション手段の一つとしての英語力の日常化・強化を図ることができる。
- ・アジア各国への理解をより一層深め、大阪大学に滞在する留学生とともに同窓意識を保ち、将来の両国の橋渡し役として国際社会に貢献する。



(a)



(b)

図3 CAREN プロジェクトの事務局がある工学研究科・国際交流推進センターの
(a) 入り口前ロビーと (b) 留学生の懇談ルームのひとこま。

以上のように、既存の英語コースを活用し、国際競争力のある組織運営へと発展させ、日本人学生のみならず、留学生の自国への寄与を考慮した教育拠点形成の確立により次世代的国際化教育環境整備を先導する試みになると考えています。

おわりに

先述のように、本プログラムでは、将来、本プログラムで準備を進める単位互換制度やダブルディグ

リー制度を活用することにより、関連する相互の大学において教員のみならず、学生も両方のキャンパスにおいてそれぞれのキャリア計画の実現のための就学活動を実施できるというような“相互に相手の大学と連携した統合型グローバルキャンパス”を構築するための先導的役割を果たしたいと考えています。

CAREN プロジェクトに対する皆様方のご理解とご支援を是非ともお願い申し上げます。

